

プロジェクトマネージャー：石黒 浩 PM

(大阪大学大学院基礎工学研究科 システム創成専攻 教授)

1. プロジェクト全体の概要

近年ロボットやエージェントの研究開発が盛んになり数多くのロボットやエージェントが利用されるようになってきた。しかしながら、ハードウェアの開発に比べてソフトウェアの開発は未だ十分ではない。パソコンがソフトウェアで大きく可能性を広げたように、ロボットやエージェントにおいても、その可能性を大きく広げるソフトウェアの開発が必要となる。

本プロジェクトの目的は、ロボットをはじめとする新しいハードウェア、新しいデバイス上で、その可能性を引き出すソフトウェアを開発できる人材を育成することである。

本年度上期においては、人間型ロボットを宣伝媒体にするためのソフトウェアを開発するテーマ。人の存在感を伝え、ネットを介して人と人を繋ぐロボットシステムを製作するテーマ。小型パソコンの機能を使って人間の発想力を鍛えるソフトウェアを開発するテーマを採択した。

従来のソフトウェア開発とは異なり、どのテーマもハードウェアが関係するものであったために、当初の計画以上に試作に手間がかかった。しかしながら、どのテーマも非常に意欲的に取り組まれたことは間違いなく、逆にハードウェアが関わる開発の難しさを体験することができたと考える。

当初の計画からは多少の遅れが出たが、そのテーマも、引き続き仕上げの作業を行い、それぞれ製品としての報道発表を行う予定にしている。その報道発表を足がかりにして、それぞれ次のステップに進んでもらいたいと考えている。

2. プロジェクト採択時の評価(全体)

プロジェクトの採択にあたっては、ソフトウェアによって、ロボットやエージェントの可能性を広げることができる提案を見極めて採択するようにした。特に注意した点は、単なる大学の研究の延長ではないこと、将来、世の中に普及する可能性が高いこと、本人が主体的に取り組んでいるテーマであること等である。ただし、テーマそのものは、必ずしも、ロボットやエージェントに限るものとはしなかった。PMのこれまでの経験をもとに、将来成長する人物である、将来発展するテーマであると思われるものを積極的に採択するようにした。

3. プロジェクト終了時の評価

採択した3つのテーマともに、計画よりも多少の遅れが出たが、どれも十分な努力が費やされたことは間違いない。定期的に指導を行い、よりよい方向に開発が進むように心がけてきたが、逆にその議論から出た新たなアイデアを取り込むのに、当初の計画よりもより多くの時間が必要となった。

しかしながら、採択者の熱意により、引き続き開発を行い、1、2ヶ月の内に、どのテーマも製品としての報道発表を行う予定である。計画に遅れは出たが、どのテーマも報道発表が視野に入るまでに仕上がってきたことに満足している。